

# 平成30年度 芳賀町立芳賀中学校 学校評価書

## 学校評価のねらい

すべての教育活動その他の学校運営が効果的に実施できているかどうか、保護者、学校、地域住民(学校評議委員=学校関係者評価委員)等が連携し、評価する。それらを通して、生徒がよりよい教育活動を受けられることをめざし、学校をよりよくするための方策を明らかにする。

## 1 校訓・教育目標

校訓	創造 敬愛 実践	教育目標	自ら学ぶ生徒 心豊かな生徒 たくましい生徒 ふるさとを愛する生徒	(創造) (敬愛) (実践) (本校の使命)
----	----------------	------	---	---------------------------------

## 2 目指す学校像

すべての生徒と職員が 夢を育み 知を磨き(創造) 心豊かに(敬愛) 汗を流して(心と体に汗をかく)(実践) 高め合う学校
---

## 3 学校経営の方針

基本経営理念：「芳賀町に誇りを持ち 明日の芳賀町を担う生徒の育成」	～誇れる、つよい学校・生徒づくり～
1 生涯学習社会に生きる生徒の育成	
2 望ましい生活習慣と社会性の育成	
3 確かな学力の保証	
4 豊かな心をもつ生徒の育成	
5 健やかな体をもつ生徒の育成	
6 全職員による学校経営参画(チーム学校の実践)	
7 家庭や地域、関係機関との協働による学校経営(チーム学校の実践)	

## 4 本年度の指導視座と重点項目

視座：10年後の勝負に勝てる生徒を育てる
重点項目：人間力の基礎・基盤をつくる…思いやりの心と確固たる生活習慣 →明日の、10年後の自分のために「時を守り 場を清め 礼を正す」

## 5 本年度の重点目標・努力点

1 確かな学力を身に付けた生徒の育成 <b>プロジェクト知</b>
①基礎的・基本的な知識や技能の定着
②課題解決のための思考力・判断力・表現力の育成
③授業力の向上
④学習意欲の向上
2 豊かな心をもつ生徒の育成 <b>プロジェクト徳</b>
①道徳の授業の充実
②「特別の教科道徳」への準備
③学校の教育活動全体を通して行う道徳教育の充実
3 健やかな体をもつ生徒の育成 <b>プロジェクト体</b>
①心身の健康増進
②部活動の充実
4 夢や目標に向かって力強く自己実現を図っていく生徒の育成 <b>プロジェクト生き方</b>
①学業指導の充実
②生活の基盤づくり
③生涯学習社会に生きる資質の育成

## 6 本年度の学校課題

時や場に応じて適切に自分の考えを表現できる生徒の育成 ～プロジェクトHAGAを核とした実践～
---

## 7 評価の仕方

評価ランク	評価規準
A	十分達成できた
B	概ね達成できた
C	あまり達成できなかった
D	達成できなかった

※ 具体的な取組は本年度、評価の【次年度の具体策】はともに教職員の具体策。目標指数は、本年度の教職員の目標指数(%)。

※ 自己評価表の数字は、A+B評価の割合(%)。( )内は昨年度。

※ 達成状況の評価は、○：概ね満足 △：普通 ×：要検討

## 8 自己評価表

項目	評価項目 【目標指数(A+Bの肯定的回答)】	主な具体的な取組	評価(A+Bの肯定的回答) 【次年度の具体策】
プロジェクト知	<p>1 生徒の学力の向上 生徒：授業の内容がよく分かる 保護者：学校は学力の向上を図っている 教職員：生徒の学力向上を図っている。</p> <p>【目標指数】 生徒 80% 保護者 85% 教師 90%</p>	<p>【本年度の具体策】 振り返りの工夫、生徒相互の教え合い、下位層への重点的指導</p> <p>・縦割り授業を活用した教材研究の充実と興味関心を高める展開の工夫 等</p>	<p>【達成状況】 生徒：80.9%(79.4%) ○ 保護者：81.5%(87.3%) △ 教職員：97.4%(100%) ○</p> <p>・肯定的な回答が80%以上と、概ね達成されているが、保護者回答では昨年を6%下回っており、縦割り授業など改善した点を理解してもらう努力が必要である。</p> <p>【次年度の具体策】 教科部会を活用した授業改善の継続。振り返り=疑問を解く、できたことを実感する時間とする。</p>
	<p>2 コミュニケーション力 生徒：自分の考え発表することができる 保護者：学校は子どもの発表力向上を図っている 教職員：生徒の発表力、コミュニケーション力の向上を図っている。</p> <p>【目標指数】 生徒 60% 保護者 75% 教師 90%</p>	<p>【本年度の具体策】 発表の機会の設定、話しやすい環境作り、話しを良く聞く指導、成功体験の累積、発表の意義の理解</p> <p>・言語活動の充実(話し合い・伝え合い活動の充実・自由に意見が言える雰囲気づくり) 等</p>	<p>【達成状況】 生徒：47.5%(46.7%) × 保護者：75.8%(79.8%) ○ 教職員：100%(100%) ○</p> <p>・本年度も学校課題として取り組んできた。生徒の自信とまではなっていないが、講演会での多くの質問や授業中の発表など、確実に力を高めていると感じている。</p> <p>【次年度の具体策】 「発表(表現)力」の指導方法を確立させ、教師側の指導スキルを向上させる。</p>
	<p>3 授業力 生徒：授業に一生懸命に取り組んでいる 保護者：学校は子どもの学習意欲の向上を図っている 教職員：生徒の学習意欲の向上を図っている。</p> <p>【目標指数】 生徒 85% 保護者 80% 教師 90%</p>	<p>【本年度の具体策】 授業研究、授業公開の実施、OJTの活用による指導力の向上、ねらいを明確にした分かりやすい指導法の研究</p> <p>・主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業の展開 等</p>	<p>【達成状況】 生徒：89.2%(88.0%) ○ 保護者：76.8%(83.8%) △ 教職員：100%(100%) ○</p> <p>・生徒の学習意欲はたいへん高い水準を維持している。教師側も教科部会を生かし、授業改善に取り組んでいる。それが保護者の理解に繋がるよう、連携を図る必要がある。</p> <p>【次年度の具体策】 深い学びの技法を取り入れた授業を展開して、生徒の主体的・対話的な学びを生み出す。</p>
	<p>4 家庭学習 生徒：家庭学習の仕方・習慣が身に付いている 保護者：学校は子どもの家庭学習の仕方を指導したり習慣化を図っている 教職員：生徒の家庭学習の仕方を指導したり、習慣化を図っている。</p> <p>【目標指数】 生徒 75% 保護者 80% 教師 90%</p>	<p>【本年度の具体策】 宿題でのその日の授業内容の振り返り、弱点の明確化と克服のための個に応じた課題の設定</p> <p>・家庭学習や学習課題の出し方の工夫、個に応じた学習課題の設定 等</p>	<p>【達成状況】 B 生徒：71.5%(70.5%) △ 保護者：78.3%(79.3%) △ 教職員：94.7%(97.2%) ○</p> <p>・家庭学習については70%以上の肯定的な意見を得ているが、約4人に1人が否定的な意見で、これは高い数字である。学校と家庭とが連携し、自ら学習しようという意欲をもたせられるようにしたい。</p> <p>【次年度の具体策】 週末課題や学力向上の日の工夫と家庭学習力アップ大作戦の推進。</p>

	<p>5 学習成績  <b>生徒</b>：学習成績についてよく分かっている  <b>保護者</b>：学校は子どもの学習の様子・成績についてわかりやすく伝えている  <b>教職員</b>：生徒の学習の様子・成績について、わかりやすく伝えている。</p> <p>【目標指数】      生徒 85%      保護者 85%      教師 90%</p>	<p>【本年度の具体策】      分かりやすい伝達の継続</p> <p>・成績表や通知表配付時の細かな説明 等</p>	<p>【達成状況】  <b>生徒</b>：90.4%(89.6%) ○  <b>保護者</b>：82.8%(86.0%) △  <b>教職員</b>：97.4%(100%) ○      ・生徒は90%以上、保護者は80%以上が肯定的な意見であり、概ね理解を得ている。さらに理解を深めるため、面談等での情報の提供を充実させたい。      【次年度の具体策】      分かりやすい伝達の継続      ・成績表、通知表配布時の細かな説明と学級通信の発行。三者面談での説明。</p>
プロジェクト	<p>6 道徳の授業  <b>生徒</b>：道徳の時間に、テーマについて一生懸命考えている  <b>保護者</b>：学校は様々なテーマに沿った道徳の授業を展開している  <b>教職員</b>：年計に沿って道徳の授業を進めている。</p> <p>【目標指数】      生徒 80%      保護者 80%      教師 90%</p>	<p>【本年度の具体策】      学期ごとに各学年共通題材による研究を行い、授業力向上を図る。さらに、道徳通信や学級通信で保護者に伝える。</p> <p>・校内推進体制の整備と授業公開、授業研究会の充実 等</p>	<p>【達成状況】  <b>生徒</b>：89.0%(85.1%) ○  <b>保護者</b>：79.8%(80.1%) ○  <b>教職員</b>：92.1%(97.2%) ○      ・来年度からの道徳の教科化を控え、『考え議論する道徳』を目指し、授業研究を進めてきた。その成果が現れ、生徒による活発な授業が数多く見られた。      【次年度の具体策】      学期ごとに各学年共通題材による研究を行い、授業力向上を図れるよう、年計通りに授業を進める。      さらに、道徳通信や学級通信で保護者に伝える。</p>
	<p>7 道徳的実践力  <b>生徒</b>：道徳の時間に考えたことを実践している  <b>保護者</b>：家庭で道徳の時間に考えたことを実践することに関して話題にすることがある  <b>教職員</b>：道徳の授業の中で道徳的実践に結びつくよう指導している。</p> <p>【目標指数】      生徒 70%      保護者 60%      教師 80%</p>	<p>【本年度の具体策】      学期2回、道徳通信や学級通信で授業の様子を保護者に伝え、家庭で話し合うきっかけを作る。(返信欄を設ける) 等</p>	<p>【達成状況】  <b>生徒</b>：69.7%(59.5%) △  <b>保護者</b>：39.8%(44.3%) ×  <b>教職員</b>：97.4%(88.9%) ○      ・生徒の肯定的な意見が昨年を10.2%上回り、実践力が高まっていると考えられる。しかし、保護者回答では、不十分であると考え意見が過半数であり、課題が残る。      【次年度の具体策】      道徳の時間に考えた内容を保護者に分かりやすく伝えるため、担任以外の先生が担当し、道徳通信を毎週出す。(文字は大きく少なく、写真を多めに)      なお、道徳通信には価値項目を必ず入れる。(価値項目は噛み砕いて分かりやすく書く)</p>
	<p>8 学校行事  <b>生徒</b>：学校行事に積極的に取り組み、感動を共にし充実感が味わえた  <b>保護者</b>：学校は学校行事を通して子どもが感動を共有し、充実感が味わえるようにしている  <b>教職員</b>：学校行事を通して生徒が感動を共有し、充実感が味わえるようにしている。</p> <p>【目標指数】      生徒 80%      保護者 80%      教師 90%</p>	<p>【本年度の具体策】      行事の計画の中で、生徒ができる部分を洗い出し、生徒の主体的活動を支援していく。</p> <p>・感動を共有し自尊感情を育てる学校行事への積極的な取組 等</p>	<p>【達成状況】  <b>生徒</b>：85.7%(85.0%) ○  <b>保護者</b>：88.5%(91.6%) ○  <b>教職員</b>：100%(100%) ○      ・生徒、保護者ともに肯定的な意見が85%を上回る結果であり、概ね達成されていると考えられる。今後も継続していきたい。      【次年度の具体策】      行事の計画の中で、生徒ができる部分を洗い出し、生徒の主体的活動を支援していく。また、生徒主体の活動を少しずつ増やしていく。</p>
	<p>9 清掃活動  <b>生徒</b>：清掃活動に一生懸命に取り組んでいる  <b>保護者</b>：子どもは家の手伝いをしている  <b>教職員</b>：清掃活動において「3つのルール」を徹底させている。</p> <p>【目標指数】      生徒 80%      保護者 60%      教師 80%</p>	<p>【本年度の具体策】      3つのルールをさらに徹底し、勤労意欲を高めるとともに、家の手伝いを奨励する。</p> <p>・「本気の15分」      ①清掃に適した服装で取り組もう！      ②清掃開始時間を必ず守ろう！      ③「綺麗にする」意識をもとう！ 等</p>	<p>【達成状況】  <b>生徒</b>：91.7%(90.1%) ○  <b>保護者</b>：50.8%(52.5%) ×  <b>教職員</b>：86.8%(91.7%) ○      ・清掃活動には、生徒は91.7%が一生懸命取り組んでいると答えている。しかし、保護者は、半数近くが、家での手伝いはあまりしていないと答えている。勤労奉仕的な活動が、様々な場面で展開できるようにしていきたい。      【次年度の具体策】      3つのルールを徹底し、勤労意欲を高めるとともに、家の手伝いを奨励する。</p>

プロジェクト 体	<p>10 生活習慣 「早寝早起き」 生徒：早寝早起きを実践している 保護者：子どもは早寝早起きを実践している 教職員：「早寝早起き」を指導している。</p> <p>【目標指数】 生徒 80% 保護者 80% 教師 90%</p>	<p>【本年度の具体策】 早寝早起きを実践したかの確認と呼びかけを行う。保護者との連携をとる。</p> <p>・ 24：00前就寝 6：30前起床 等</p>	<p>【達成状況】 生徒：77.6%(76.1%) △ 保護者：80.0%(81.1%) ○ 教職員：76.3%(89.9%) × ・「早寝・早起き」については、生徒、保護者ともに高い数値ではあるが、中学生という発達段階を考えると、さらに高い数値が望ましいと考える。 【次年度の具体策】 ・教育講演会 ・お便りの配信 ・担任からの啓発</p>
	<p>11 生活習慣（朝食） 生徒：朝食を毎日食べている 保護者：子どもは朝食を毎日食べている 教職員：生徒が朝食を毎日食べるよう指導している。</p> <p>【目標指数】 生徒 90% 保護者 95% 教師 95%</p>	<p>【本年度の具体策】 朝食を摂ったかの確認と呼びかけを行うとともに、朝食の大切さを生徒・保護者に定期的に伝えていく。</p> <p>・早寝・早起き・朝ご飯の習慣化 等</p>	<p>【達成状況】 生徒：93.0%(91.8%) ○ 保護者：93.3%(94.6%) △ 教職員：92.1%(94.4%) △ ・朝食を食べるといことは、生徒、保護者ともに93%を超え、高い数値ではあるが、1日を過ごす重要なエネルギー源であり、脳の活性化させるという観点からも100%を目指したい項目である。 【次年度の具体策】 朝食チェックを行い、その結果をフィードバックして保護者に伝えていく</p>
	<p>12 生活習慣（食生活） 生徒：好き嫌いなく食べることができる 保護者：子どもは主菜副菜を交えて食べるなど、望ましい食習慣を身につけている 教職員：主食、主菜、副菜を交えて食べるなど、望ましい食習慣を身に付くよう指導している。</p> <p>【目標指数】 生徒 80% 保護者 80% 教師 90%</p>	<p>【本年度の具体策】 学校給食における現状を調査し、食生活における課題を保護者と共有し、解決に向けての指導を継続する。</p> <p>・正しい食事の在り方や望ましい食習慣、残食なしを目指した指導、食文化や郷土の産物への理解 等</p>	<p>【達成状況】 生徒：77.8%(75.0%) △ 保護者：79.9%(80.3%) ○ 教職員：92.1%(88.9%) ○ ・生徒、保護者ともに75%を越える高い数値を維持しているが、22%にあたる生徒は、好き嫌いで食べていない実態がある。バランスのよい体の成長と食生活を目指し、嫌いな物でも少しは食べるという習慣をつけさせたい。 【次年度の具体策】 ・準備を早くするための具体的な指導 ・マナー指導</p>
	<p>13 部活動 生徒：部活動に一生懸命に取り組んでいる 保護者：学校は部活動の指導を一生懸命に取り組んでいる 教職員：部活動の指導を一生懸命にやっている。</p> <p>【目標指数】 生徒 90% 保護者 90% 教師 95%</p>	<p>【本年度の具体策】 顧問が準備から片付け下校までの活動を生徒と共にし、生徒の様子を観察しながら声を掛けていく。</p> <p>・高い目標設定で活動の充実を図る 等</p>	<p>【達成状況】 生徒：90.6%(89.0%) ○ 保護者：87.8%(89.6%) △ 教職員：97.4%(94.4%) ○ ・部活動に関しては、肯定的な回答が、生徒、保護者ともに、たいへん高い数値を示している。しかし、保護者の方からは様々な意見をいただき、また、働き方改革の対象とされていることもあり、応援してもらえる活動になるよう考えていきたい。 【次年度の具体策】 ・主担当も副担当も早く部活に行く ・生徒の様子をよく観察する</p>
	<p>14 安心な学校生活 生徒：学校生活が楽しい 保護者：子どもを学校に安心して預けられる 教職員：信頼される学校づくりに努力している。</p> <p>【目標指数】 生徒 85% 保護者 90% 教師 100%</p>	<p>【本年度の具体策】 学業指導の「学びに向かう集団作り」の良かったところを洗い出し、学業指導の手引きに盛り込んで次年度に生かす。</p> <p>・「帰属意識の高い学級」 「規範意識の高い学級」 「互いに高め合える学級」 「失敗が許される学級」 づくりの指導の工夫 等</p>	<p>【達成状況】 生徒：83.6%(87.2%) △ 保護者：93.0%(96.6%) ○ 教職員：100%(100%) ○ ・昨年をやや下回ったものの、高い数値で学校が楽しい、安心して預けられるという回答を得た。しかし、100%肯定的な意見となるよう一層努力していく必要がある。 【次年度の具体策】 学業指導の「学びに向かう集団作り」の良かったところを洗い出し、学業指導の手引きの内容の改善・充実を図る。</p>

<p>15 いじめ対応</p> <p><b>生徒</b>：みんなが安心して生活気持ちよく生活できるよう行動している</p> <p><b>保護者</b>：学校はいじめが起こらないように、また起こったときにはすぐ解決するよう取り組んでいる</p> <p><b>教職員</b>：いじめが起こらないように、また、起こったときにはすぐに解決するように取り組んでいる。</p> <p>【目標指数】</p> <p>生徒 85%</p> <p>保護者 80%</p> <p>教師 100%</p>	<p>【本年度の具体策】</p> <p>さらに情報の共有化とスムーズな連携を強化する。エンカウンターなども取り入れて未然防止につなげる。集会活動や学級活動の充実、教職員のサポート体制を強化する。</p> <p>・生徒会による「いじめ0宣言」等</p>	<p>【達成状況】</p> <p><b>生徒</b>：85.4%(84.5%) ○</p> <p><b>保護者</b>：76.8%(78.0%) △</p> <p><b>教職員</b>：100%(100%) ○</p> <p>・生徒の85%以上、保護者の75%以上が肯定的な評価であった。いじめがなく、全員が安心して気持ちよく生活できる学校づくりに向け、一層努力する必要がある。</p> <p>【次年度の具体策】</p> <p>情報の共有化とスムーズな連携を引き続き強化していく。エンカウンターやスクールパディなども取り入れて未然防止につなげる。とくに集会活動や学級活動の充実、教職員のサポート体制を強化する。いじめアンケートを継続して行う。</p>
<p>16 基本的生活習慣</p> <p><b>生徒</b>：時間を守る・整理整頓・あいさつの生活習慣が身に付いている</p> <p><b>保護者</b>：学校は時間を守る・整理整頓・あいさつの生活習慣の定着を図っている</p> <p><b>教職員</b>：時間を守る・整理整頓・あいさつの生活習慣の定着を図っている</p> <p>【目標指数】</p> <p>生徒 90%</p> <p>保護者 90%</p> <p>教師 100%</p>	<p>【本年度の具体策】</p> <p>あいさつの指導とともに良いあいさつを褒める。あいさつ運動を継続すると共に、教師自らが率先してあいさつを行う。</p> <p>・生活指導の充実、基本的な生活習慣の確立 等</p>	<p>【達成状況】</p> <p><b>生徒</b>：85.9%(85.0%) △</p> <p><b>保護者</b>：87.0%(89.8%) △</p> <p><b>教職員</b>：92.1%(100%) △</p> <p>・基本的な生活習慣については、生徒、保護者ともに概ね身に付いているとしているが、さらにより習慣となるようにしたい。</p> <p>【次年度の具体策】</p> <p>あいさつの指導とともに良いあいさつを褒める。あいさつ運動を継続すると共に、教師自らが率先垂範であいさつを行うことで、あいさつをとくに強化していく。(※あいさつとその他で項目を分けてはどうか)</p>
<p>17 地域貢献活動</p> <p><b>生徒</b>：地域行事に参加したり、地域の方にあいさつをしたり、地域や他の人のためになる行動がとれている</p> <p><b>保護者</b>：学校は子どもが地域行事に参加したり、地域の方にあいさつをしたり、地域や他の人のためになる行動がとれるよう指導している</p> <p><b>教職員</b>：生徒が地域行事に参加したり、地域の方に挨拶したり、地域や他の人のためになる行動がとれるよう指導している。</p> <p>【目標指数】</p> <p>生徒 70%</p> <p>保護者 80%</p> <p>教師 90%</p>	<p>【本年度の具体策】</p> <p>コミュニティスクールの実践に合わせて、ジュニアボランティアと学校支援ボランティアのさらなる充実を図る。</p> <p>・地域との連携(ジュニアボランティア、地域行事への参加)、郷土の理解 等</p>	<p>【達成状況】</p> <p><b>生徒</b>：78.9%(75.2%) ○</p> <p><b>保護者</b>：85.3(86.5%) ○</p> <p><b>教職員</b>：92.1%(97.2%) ○</p> <p>・本校生徒の地域ボランティアへの参加は、地域の方からたいへん高い評価を受けている。この参加については、保護者の方や地域の方から、もっと参加させたいが部活動等との兼ね合いで参加しづらいとの意見もある。参加し経験することの意義や重要性を感じているので、参加できる体制づくりをさらに整えていく必要がある。</p> <p>【次年度の具体策】</p> <p>コミュニティスクールの実践に合わせて、ジュニアボランティアと学校支援ボランティアのさらなる充実を図る。クリーン芳賀に積極的に参加できるように、PRを強化する。</p>
<p>18 夢の達成</p> <p><b>生徒</b>：夢を持ち、その達成のためにがんばっている</p> <p><b>保護者</b>：学校は子どもが夢を持ち、その達成のためにがんばるよう指導している</p> <p><b>教職員</b>：子どもが夢を持ち、その達成のために頑張るよう指導している</p> <p>【目標指数】</p> <p>生徒 80%</p> <p>保護者 80%</p> <p>教師 95%</p>	<p>【本年度の具体策】</p> <p>系統立てた進路指導の充実を図る(学級活動の確保)。生徒会活動と関連づける。教育相談の充実を図る。</p> <p>・キャリア教育(進路指導)の充実 等</p>	<p>【達成状況】</p> <p><b>生徒</b>：73.8%(76.1%) △</p> <p><b>保護者</b>：74.3%(78.8%) △</p> <p><b>教職員</b>：97.4%(97.2%) ○</p> <p>・生涯学習社会を生きるためには、生徒が夢をもち、その達成のために努力することが大切である。そのため、家庭との連携を深めるとともに、教育環境を整え支援していくことが、学校教育の大きな役割であると考えられる。</p> <p>【次年度の具体策】</p> <p>系統立てた進路指導の充実を図る(学級活動の確保)。教育相談の充実を図る。</p>

### 【学校関係者自由記述】

#### プロジェクト知について

- ・学力向上に関しては、授業研究・縦割り授業など、先生方がたいへん努力されていて素晴らしい。
- ・栃木県人の苦手なコミュニケーション力の向上を中学時代に頑張ってもらいたい。好きな音楽やドラマなど、取っつきやすいものから始まり、ビブリオバトル等、明るく自分の意見を交わせるようになってほしい。
- ・授業力について、保護者からの評価が低下傾向で厳しいようだ。学校の取り組みを授業参観や学校だより「はがの」等を通じて理解を深めてもらっていると思うが、保護者に十分に伝わっているか、学力試験の成績や通知票の評価で結果が出ていないと判断されているのか、検討する必要がある。
- ・コミュニケーション力は、社会人になってからもとても大切です。昨年、生徒会役員立候補者公開討論会を参観し、候補者の皆さんの堂々とした発表力に感心したが、同時に他の候補者の話もしっかりと聴き共感する姿勢が素晴らしいと思った。大人でもなかなかできないことです。一方、生徒の自己評価の数値が低いのは、生徒の間での発表力などの差が大きいことの表れでしょうか。特別な場でなくとも日頃から人の話を聞き、それを踏まえて自分の意見を述べる機会を、できるだけ設けていくことが大切ではないかと思う。
- ・学校での活動等は、授業参観や体育祭、文化発表会など、行けるときの状況でしか判断できないのでは。

#### プロジェクト徳について

- ・学校、地域、家庭の清掃活動の意識向上、また、身の回りの整理整頓、清潔な身だしなみ等中学時代に磨いてほしい。
- ・道徳は特に学んだことを実践することが大切な教科だと思う。そしてその実践の場は学校のみならず、家庭や地域でもあると考えるが、それだけに、保護者の達成状況が低いことが気になる。保護者の関心を高める活動を是非やってもらいたい。保護者も学力向上のみを求めるのではなく、特に道徳教育の実践については家庭での役割がとても大きいということを理解してもらいたい必要がある。
- ・最近では家事が便利になりすぎて家の手伝いをさせることが少なくなっているのでしょうか？生徒達が勉強や部活動で忙しくて手伝う暇がないのでしょうか？昔とは状況が異なりますが、取り組みやすい手伝いの事例を紹介してはどうでしょうか。

#### プロジェクト体について

- ・部活動に関しては、働き方改革の問題もあるので、もっと生徒主体の活動に。先生はサポート的に参加。
- ・早寝早起きの指導の教員の達成率が低いのはなぜでしょう？スマホやゲームで夜更かしすることは問題ですが、部活の遅い時期は宿題が間に合わず、やむを得ず夜更かしすることもあると思う。こういう場合などはやむを得ないということでしょうか？
- ・部活動については、概ね高い評価を得ていますが、今後は中学校の部活動にも外部指導者の導入が進むと思う。勝利至上主義にならないよう、指導者の方には部活動の意義について十分理解してもらいたいと思う。

#### プロジェクト生き方について

- ・いじめ問題に関して、いろいろな取り組みがされていることがわかった。
- ・「失敗が許される学級」づくりはとてもよいこと。子どもの頃の失敗体験はたくましく思いやりのある人間になるために大事である。
- ・子どもたちが夢をもつために、先輩の高校生や社会人の方からのお話を聞く機会があればよいと思う。
- ・大小関わらず夢をもち、人や環境に憧れ、より良い自分をイメージすることが生きる糧になることを、全員知ってほしい。
- ・「ほめて伸ばす」を学校生活全般で実施してはどうか。個人をほめる。1日1度でもほめられれば、自己肯定感も増していき、いろいろな面で効果がある。
- ・子どもたちも地域住民であるという視点で、さらなる地域行事への参加の促進などに取り組んでほしい。地域の方々が、学校支援ボランティアには参加できなくても地域の子どもたちとふれあえる機会が増えることを臨みます。

#### その他

- ・保護者は我が子を「知る」ためにも、家庭内でより多くのコミュニケーションを交わし、手伝いを依頼して「ありがとう」の言葉をかけて、子どもの自尊心等を育んでもらいたい。その仕掛けをするのが学校の工夫であるとも思える。
- ・家庭学習、生活習慣などは、子どもが小さい頃からの積み重ねなので、保護者ももっと頑張ればよくなると思うが…。仕事をしている方が多いので、いろいろな手伝いをしてもらうことは難しいけれどもっと関わってもらいたい。
- ・達成状況が高くなかった項目について、なぜ高くなかったのか、このアンケートではわからない。例えば、コミュニケーション力は、学年が上がるにつれて上昇していれば指導の成果が評価できるのでは。
- ・アンケート集計にたいへん手間がかかっていると思う。集計作業の手間を減らす方法も考えてみては。

## 9 まとめと次年度に向けて（学校関係者評価を受けて）

### 【プロジェクト知について】

学力向上については、教師の授業力向上に関する取り組みなど、一定の評価を頂いている。また、コミュニケーション能力の向上について取り組み、成果も表れてきている。しかし、そういった取組が保護者に伝わっているかという点については、十分とは言えない状況がある。学校、保護者間での情報交換は、行事等で来校してもらうほかに、ホームページ、学校だより、学年だより、学級だより、図書だより、給食だより、それに対する保護者の感想、三者(二者)面談など、さまざまな方法で行っている。しかしながら、その認知度は低く、情報が確実に伝わっている状況ではないようである。学校、保護者がお互いに、情報を知らせたい、知りたいと考えているにもかかわらず残念な状況である。発信した情報が伝わる割合が増やせるよう、要因の解明と改善を図っていきたい。

### 【プロジェクト徳について】

来年度の道徳の教科化完全実施に備え、今年度も「考え議論する道徳」の授業を目指し、研究授業や授業研究を行ってきた。生徒の道徳の授業に関するアンケートでは、いろいろなことが考えられた、友達の考えがよくわかった、楽しく発表できたなど概ね良好な意見が出された。道徳の最大の目的は、学んだことを実践することにある。家庭や地域社会で実践できるよう、学校外の多くの方の協力が必要となる。各家庭との連携を強くし、道徳的实践力が高まっていくよう働きかけをしていく必要がある。

### 【プロジェクト体について】

中学生の心身を健全に育成していくには、「早寝、早起き、朝ご飯」は不可欠なものとする。成長期にある生徒達にとって、100%となるように、我々教師自身の意識を高め、生徒と接していくことはとても大切である。また、家庭との連携も不可欠である。部活動については、教職員の働き方改革との関連もあり、来年度から大きく変えていく必要がある。その中で、部活動の意義を理解し、生徒にとって心身の成長の手助けとなるにしなければならない。多くの手法を考え、生徒にとって最適な部活動の在り方を考えていく。

### 【プロジェクト生き方について】

いじめ対応についてはある程度評価されているが、いじめの根絶が大切なことであり、100%安心して学校生活を送れるよう、家庭、地域と連携を図っていく必要がある。また、生徒達が大きく成長していくためには「夢」をもつことは必要不可欠である。そのために先輩や社会人の方からの講話等は有効であり、マイ・チャレンジ前も職業人講話などを充実させていきたい。地域との連携については、学校支援ボランティアを増やし、多くの活動で支援してもらうことが有効であるとする。現在行っている芳賀町中学生ジュニアボランティア活動では、生徒が学校で学んだことを地域に発信し、学校支援ボランティアでは、地域の力を学校に取り入れるといった、相互補完の関係を強く構築しなければならない。それがコミュニティスクール化された本校の目指す1つの形であるとする。

### 【その他について】

今年度実施した学校づくりアンケートからは、読み取れるものと読み取れないものがあったことは事実である。今後、質問を精査し、集計方法を工夫することで、多くの情報を得られるよう工夫したい。また、町内3小学校もコミュニティスクール化され、同一の学校運営協議会となることから、町内4校でのアンケート項目の共通化と各校独自の質問の検討が必要となる。学校運営協議会と町内4校の連携を密にしていくことが急務である。